

会員の皆様、

CCBJはブラジル銀行のタルシアナ・メデイロス頭取に対して、CCBJアワード・パーソン・オブ・ザ・イヤー賞を授与しました。女性として初めてブラジル銀行頭取に就任されたメデイロス氏は、ブラジルと日本の貿易促進における卓越した功績が讃えられ同賞が授与されました。授賞式は8月末にメデイロス頭取の来日の際に行われ、皆様から大きな反響を頂きましたことに感謝申し上げます。

メデイロス氏はブラジルを代表する財界人として受賞されましたが、日本の受賞者についても近々発表する予定です。

今月号の寄稿欄では日本の所得税という重要なテーマを取り上げ、ブラジル銀行にご協力いただき所得税の申告義務に関する記事を掲載しました。

どうぞよろしくお願いいたします。

CCBJ会頭
行徳セルソ

(寄稿)

日本の所得税を理解する

投資の利益や配当金にかかる税金は、世界各国の経済で重要な役割を果たし、個人投資家や企業、金融市場全般に影響を与えます。

アジア地域の金融の中心地一つである日本では、投資収益に対する税制は、日本政府の経済・財政政策を反映するものであることから、特に重要な意味を持っています。

こうした政策を理解することは、納税義務を考慮しながら十分な情報に基づいた意思決定を行い、投資のリターンを最大化するために不可欠です。

この問題について考えるとき、日本ではなぜ投資利益や配当金に対する税率が20%、20.50%、あるいは20.30%というキリのいい数ではなく、20.315%という数字なのかということに疑問を感じると思います。その答えは、日本で起きたある出来事と、算出方法に関係しています。これから皆さんと一緒にその答えを探っていきたいと思いますので、是非最後までお付き合いください。

所得税と住民税

この税率の謎を理解するためには、まず所得税と住民税の2つに分けて考える必要があります。

住民税は5%と定められており、その年の初めに住所登録されていた市町村役場に支払われます。残りの15.315%に相当する部分が所得税で、ここに謎が隠されています。もともと所得税の税率は15%と定められていましたが、2011年の震災の後、日本政府は復興のための資金調達を目的とした新税を臨時的に導入しました。

復興特別所得税

2013年に「復興特別所得税」という付加税が導入されました。この新税は所得税に2.1%の税率を上乗せして徴収されます。投資の場合は、累進課税が適

用される給与所得とは異なり、所得額に関係なく一律の税率が適用されます。

つまり、本来の所得税率15%に2.1%を乗じると15.315% ($0.15 \times 1.021 \times 100 = 15.315$) になります。この数字に住民税を加えた20.315%が投資にかかる税率となります。ただし2013年に創設された復興特別所得税の課税期間は25年間と定められており、2037年に終了します。

日本で手軽に投資するには

日本の税制は複雑で、さまざまな種類の税金が存在するため、外国人住民にとっては理解しづらいものです。ブラジル銀行在日支店では、例えば定期預金への投資の場合、必要な税金は源泉徴収されるため、税金のことで頭を悩ませることはありません。

手軽に今日からでも夢に向けて投資を始めたいという方には、あらかじめ金利が固定され、普通預金よりも高いリターンが期待できる投資である「定期預金」がおすすめです。

ブラジル銀行の定期預金では、円、米ドル、ユーロ、レアルの4通貨で、それぞれ500ドル、5万円、500ユーロ、2000レアルからお預入れが可能です。

出所：ブラジル銀行

ブラジルの豚肉と鶏肉の生産量 2025年に過去最高更新の見込み

ブラジル国家食糧供給公社 (CONAB) の発表によると、ブラジルの豚肉と鶏肉の生産量は2025年に過去最高記録を更新すると予想されています。加熱する海外需要や順調な国内市場に加え、穀物価格の下落によりコストが抑えられる中、豚肉生産量は約545万トン、鶏肉生産量は1551万トンに達すると見込まれています。ブラジル産豚肉と鶏肉の主要消費国は中国、アラブ首長国連邦、フィリピンなどです。

詳細はこちら：<https://agenciagov.ebc.com.br/noticias/202409/producao-de-carne-suina-e-de-frango-devem-atingir-novo-recorde-em-2025>

出所：農牧食料供給省（MAPA）

中規模企業と大企業の89.1%が環境問題への取り組み実施

ブラジル国内の従業員数100人以上の企業9,827社のうち、2023年に環境問題への取り組みを実施した企業の割合は89.1%（8,758社）に上りました。半年ごとに行われるイノベーション調査（PINTEC 2023）によると、取り組みの内容については、固形廃棄物に関するものが79.6%と最も多く、以下リサイクルと再利用（75.1%）、エネルギー効率（61.5%）、水資源（57.1%）と続きました。この調査は、ブラジル産業開発庁（ABDI）とリオデジャネイロ連邦大学（UFRJ）が共同で実施しています。。

詳細はこちら：<https://agenciadenoticias.ibge.gov.br/agencia-noticias/2012-agencia-de-noticias/noticias/41345-em-2023-89-1-das-medias-e-grandes-industrias-implementaram-iniciativas-ou-praticas-ambientais>

出所：ブラジル地理統計院（IBGE）

ブラジル産アボガド 日本への輸出解禁へ

日本政府はブラジル産ハス種のアボガドの輸入を解禁しました。今回の解禁で、ブラジルのアグリビジネスにとって新たなビジネスチャンスがもたらされると同時に、世界的にも基準の厳しい国である日本向けに出荷されるブラジル産果実の多様化にもつながります。

日本は2023年のブラジル産農産物の輸出相手国ランキングで第4位を占め、輸出額は41億米ドルを記録しました。今年1月から7月の輸出額は17億1000

万ドルで、そのうち果実は329万米ドルでした。今回の認可も含めるとブラジル産農産物の輸出解禁件数は今年だけで104件、2023年1月まで遡ると182件に上がっています。

出所：農牧食料供給省（MAPA） / 外務省（MRE）